

No.773 2011年2月14日

ARIBの動き

「MMAC フォーラム講演会 2011」が開催される

「MMAC フォーラム講演会 2011」が、2月9日、マルチメディア移動アクセスフォーラム（以下「MMAC フォーラム」という。）の主催、当会の後援及びIEEE 東京支部の協賛により明治記念館において開催されました。

MMAC フォーラムでは、マルチメディアを「いつでも、どこでも」取り扱うことができ、光ファイバ等とシームレスな接続が可能で、持ち運びできる超高速・高品質な無線アクセスシステムであるマルチメディア移動アクセス（MMAC）の開発を目標として、調査研究、システム仕様検討、実証実験、情報交流及び普及啓発活動等を行っております。本講演会は、無線アクセスシステムの可能性を広く知っていただき、MMAC の一層の活性化に役立てていただくことを目的に開催されました。

今回の講演会では、MMAC フォーラム会長の齊藤忠夫東京大学名誉教授から開会の挨拶に続き、6名の講師にご講演をいただきました。

会場には230名を越える方々の参加があり、多くの質問が出され熱心な討議が繰返されました。



「MMAC フォーラム講演会 2011」の様子と齊藤忠夫会長

- 講演1 「Opportunities for future home networks with IEEE 802.11ad」
 豊田 一彦氏（日本電信電話株式会社 NTT未来ねっと研究所 主任研究員）
 Thomas Derham氏（フランステレコム株式会社Orange Labs Tokyo 主任研究員）
- 講演2 「IEEE 802.15.6ボディアエリアネットワーク（BAN）の標準化動向」
 李 還幫氏（独立行政法人情報通信研究機構 新世代ワイヤレス研究センター
 医療支援ICTグループ 主任研究員）
- 講演3 「スマートグリッドを実現するIEEE 802.15.4g標準化動向」
 原田 博司氏（独立行政法人情報通信研究機構 新世代ワイヤレス研究センター
 ユビキタスマバイルグループ グループリーダー）
- 講演4 「IEEE 802.11s無線LANメッシュネットワークの標準化動向」
 迫田 和之氏（ソニー株式会社 システム技術研究所 通信研究部 CCT Gp.
 シニア・リサーチャー）
- 講演5 「広域ユビキタスネットワークの最新動向」
 内田 大誠氏（日本電信電話株式会社 NTTアクセスサービスシステム研究所
 主任研究員）

（注：MMAC フォーラムはMMACの早期実現を図るため、MMACに関する調査研究、システムの仕様検討及び実証実験並びに周波数確保のための提言等を行っている任意団体で、現在の会員数は69社です。ARIBはMMACフォーラムの事務局を務めています。）



豊田 一彦氏



Thomas Derham 氏



李 還幫氏



原田 博司氏



迫田 和之氏



内田 大誠氏

「第6回 WINDS 利用実験実施協議会総会」が開催される

WINDS 利用実験実施協議会は、総務省が公募した超高速インターネット衛星(WINDS)の利用実験に応募し、衛星アプリケーション実験推進会議において採択された53の実験プロジェクトの実施機関を会員として、平成19年7月に設立された任意団体であり、ARIBが事務局を務めています

2月3日、ARIBにおいて、第6回 WINDS 利用実験実施協議会総会が開催されました。はじめに協議会会長の西原明法東京工業大学教育工学開発センター教授から開会挨拶と、総務省情報通信国際戦略局宇宙通信政策課の森孝課長から来賓挨拶があり、その後下記の報告があり

ました。

記

議題 1：平成 22 年度利用実験 実施状況報告(全体概要)

議題 2：平成 21 年度会計報告及び平成 22 年度予算の執行状況報告

議題 3：平成 23 年度実験計画及び第 1 四半期実験スケジュール案について

議題 4：

(1) JAXA の基本実験成果及びセンチネルアジア向け地球局 (SA-VSAT) の利用について
岡田 裕二氏 (独立行政法人宇宙航空研究開発機構 衛星利用推進センター
主幹開発員)

(2) NICT の基本実験成果及びコンパクト VSAT について
(WINDS Basic Experiments of NICT)

高橋 卓氏 (独立行政法人情報通信研究機構 新世代ワイヤレス研究センター
宇宙通信ネットワークグループ 研究マネージャ)

議題 5：平成 22 年度利用実験の個別成果報告、各利用実験実施機関 (*は国際共同実験)

(1) Application Experiment of WINDS- Chulalongkorn University(*)

Prof. Prasit Prapinmongkolkarn 氏 (Chairman of NBTC) (タイ国)

(2) Distance Education using Multicast High-Definition Video among the Philippines,
Thailand, and Japan(*)

西原 明法氏 (東京工業大学教育工学開発センター教授)

(3) 高速衛星通信回線を用いた不整地走行ロボットの遠隔オペレーションの実験

吉田 和哉氏 (東北大学大学院教授)

(4) Experimental Evaluation for TCP/IP based VPN(Virtual Private Network) on
WINDS network system(*)

梅野 健氏 (株式会社カオスウェア 代表取締役社長)

(5) 高速衛星回線を考慮した TCP プロキシ(TCP-gSTAR)の実験的評価

事務局からの代理発表 (石田 賢治氏、小畑 博靖氏 (広島市立大学教授))

(6) Hi-Vision Video VPN Transmission Experiments using WINDS (*)

加藤 博憲氏 (有人宇宙システム株式会社 (JAMSS))



「第 6 回 WINDS 利用実験実施協議会総会」の様子と西原協議会会長

「完全デジタル化最終行動計画」及び「完全デジタル化に向けた最終国民運動」
の公表

【平成 23 年 1 月 24 日の総務省報道資料から】

総務省では、放送事業者、メーカー、地方公共団体、その他関係者とともに、テレビ放送の完全デジタル化の推進に取り組み、送信側及び受信側の各課題等に適切に対応するための施策を積極的に推進するため、「完全デジタル化最終行動計画」及び「完全デジタル化に向けた最終国民運動」を策定いたしました。

1 目的・背景等

地上デジタルテレビ放送は、平成 15（2003）年 12 月に三大広域圏（関東・中京・近畿）において開始され、平成 18（2006）年 12 月には全都道府県・全放送事業者の親局において開始されました。

地上デジタル推進全国会議（議長：岡村 正 日本商工会議所会頭）では、構成員である関係者が実施すべき事項とそのスケジュールを、第 1 次から第 10 次までの「デジタル放送推進のための行動計画」として策定し、関係者が地上デジタルテレビ放送の推進に取り組んでまいりました。

また、地上デジタル放送国民運動推進本部（本部長：片山 善博 総務大臣）では、すべての関係者が一体となった国民運動を展開することにより、国民の視点に立ったテレビ放送の完全デジタル化を加速推進してまいりました。

その結果、地上デジタルテレビ放送は順調に普及していますが、本年 7 月にアナログ放送を終了し、デジタル放送に円滑に完全移行するためには、残り半年（181 日）という限られた期間の中で、更に関係者が各々の取組を強化することが必要となっています。

2 「完全デジタル化最終行動計画」及び「完全デジタル化に向けた最終国民運動」の策定・公表

1 月 24 日、平成 23（2011）年 7 月のテレビ放送の完全デジタル化に向けた最終段階に当たり、関係者が今後取り組む事項等を取りまとめた「完全デジタル化最終行動計画」及び国民の視点に立ったテレビ放送の完全デジタル化を加速推進するための「完全デジタル化に向けた最終国民運動」を策定しました。

なお、「完全デジタル化最終行動計画」及び「完全デジタル化に向けた最終国民運動」については、総務省ホームページにおいて公表しております。

[完全デジタル化最終行動計画（資料編）](#)
[完全デジタル化に向けた最終国民運動](#)

（参考）

地上デジタル推進全国会議及び地上デジタル放送国民運動推進本部の概要 [（別添）](#)

高度無線通信研究委員会 副委員長
モバイルコマース部会 部会長
(KDDI 株式会社 執行役員)

安田 豊



私は、5年ほど前に発足した「高度無線通信研究委員会」の副委員長とともに、2年前に同委員会に移管された「モバイルコマース (MC) 部会」の部会長も努めさせて頂いております。無線の中にコマースというのは何故?と思われるかも知れませんが、この MC 部会は、もともとは 2001 年に発足したモバイル IT フォーラム (mITF) の中で、第 4 世代システムの開発検討とともに、コマースが将来のモバイルサービスの目玉の一つになることを想定して設置された部会です。今ではケータイをかざしてお買い物とか駅の改札通過というのは当たり前になりましたが、10 年前にはこのようなサービスは実現しておらず、2002 年の情報通信月間シンポジウムの中で「ケータイが財布になる?」という講演をさせていただいた時も、まだ半信半疑の方が多くおられました。その後、日本では、世界の先頭を切って非接触 IC 技術 (いわゆるタイプ C) 利用のモバイルコマースのサービス実用化が進んだことは皆様ご存知の通りです。

ただ、このような日本の先進サービスも、世界の中では「ガラパゴスケータイ」と揶揄される風潮の中で埋没しかねないという危惧もありましたが、ここにきて、タイプ A~C の非接触 IC 技術を包含する、いわゆる NFC (Near Field Communication) チップ搭載のケータイやスマートフォンが海外でも急速に普及し始め、いよいよ、日本でのサービス事例を世界に広める機が熟してきました。これまで MC 部会の中で特に力を入れて検討を進めてきたケータイ利用の認証技術 (本人認証や属性認証などの技術仕様策定推進) を、国内外でのサービス実用化という形で生かす環境が整ってきたのです。ARIB での標準化活動なども「ガラパゴス」を恐れず先進的な技術・サービスを開発しつつ、世界の流れをみながらグローバル化の努力をする」ということが重要と考えます。引き続き、関係各位のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

編集後記

私は今回から ARIB NEWS の編集に参加致しました。今後 ARIB NEWS で、ホットな情報をお届けしたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。(T.K.)

ARIB

Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS
発行所

社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-1 日土地ビル11F
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<http://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp